

研究部会報告



● ファジィ動的計画法 ●

・第1回

日時：4月19日(月) 18:00~20:00

出席者：7名

場所：財団法人科学技術連盟 1号館2C会議室

テーマと講師：

「環境システム」

小田中敏男 (東京都立科学技術大学名誉教授)

本発表ではまず、基本的概念としてのエコロジーについて論じ、「ガイア」の考え方を説明した。次に、地域を経済的な局面の他に、政治的、社会的、心理的、文化的な局面をもつ有機体であるとして、物価安定策、自治社会における政策優先度、上下水道施設の最適拡張計画を取り上げた。

さらにエネルギー、食糧、特に、水資源について論じ、加えて、生態系を取り上げ、この生態系が効率の良いエネルギー利用とエントロピー最小化を維持するための秩序がどのような法則によって支配されるかについて考察した。また、人間が生物との共生を可能ならしめる途について考察した。

● グローバル政策 ●

・第1回

日時：4月24日(土) 14:00~17:00

出席者：6名

場所：三菱総合研究所 4階 CR-4 会議室

テーマと講師：

「グローバル問題を見直す」

荻野正浩

ポスト情報化社会には、世界はどのような？ 我々は何をなすべきか？ という問いは、未来学として捉えるべきであろう。そこで、未来学ではグローバル問題をどう捉えているか、糸川英夫の「人類は21世紀に滅亡する!？」及び「21世紀への遺言」、ユイグの「未来予測の幻想」、浜田和幸の「知的未来学入門」から考察した。未来学の視座には、各論各派が存在するが、大部分は人々に希望を与える運命開拓論にならざるを

得ないことがわかる。

情報化社会では、知識は膨張しても知性が高まるといふ因果関係は希薄であり、情報化社会は選択の道が無数に増殖し、人間社会の複雑さを単に増幅するに過ぎないという考えもある。しかし、ポスト情報化社会は人類の意志によって創られるべきものであり、いかに創るかという人類の意志が今問われるべきである。

会合記録

4月1日(木)	IAOR委員会	2名
4月2日(金)	庶務幹事会	5名
4月7日(水)	機関誌編集委員会	8名
4月9日(金)	評議員会	3名
	理事会	14名

● 平成11年度会費納入のお願い(事務局)

平成11年度の会費請求書をお送りいたしましたので、お早めにご送金くださるようお願いいたします。なお、10年度以前の会費を未納の方は合わせてお支払いくださるよう重ねてお願いいたします。

〔預金口座振替ご利用の方へ〕

平成11年度から預金口座振替をご希望の正会員の方は、学会事務局までTEL、FAX、郵便にてご連絡ください。折り返し預金口座振替依頼書をお送りいたします。

● APORS 2000のお知らせ

アジア太平洋地域のオペレーションズ・リサーチ学会の国際的組織であるAPORS (The Association of Asian-Pacific Operational Research Societies within IFORS) の第5回会議 APORS 2000 が開催されます。

日程：2000年7月5日~7日

テーマ：“OR IN THE MILLENNIUM”

場所：シンガポール

問合せ先：Call for papers は学会事務局にあります。また、詳しくは、<http://www.comp.nus.edu.sg/~phuakh/apors> をご覧ください。